寄せ太鼓

北九州市立長崎街道木屋瀬宿記念館
木屋瀬宿記念館運営協議会 広報部会
北九州市八幡西区木屋瀬三丁目16番26号（〒807-1261）
TEL 093-619-1149
FAX 093-617-4949

第25回 筑前木屋瀬 宿場まつり

地域が参加・協力し、今回も盛大に開催

「歴史と文化を活かした地域の活性化」を目指して始められ、25回目を迎えた「筑前木屋瀬宿場まつり」は、清天に恵まれ全てのプログラムが滞りなく執り行われましたことをご報告申し上げます。

これも、長きにわたる皆様のご支援・ご協力のお蔭であり、皆様の「熱き心」の賜であると心から御礼申し上げます。

街道では、筑前各地の「伝承盆踊り」、スタンプラリー、街並み史料館、青空市場、フリーマーケット、そして今回2回目の開催となった「のみの市」やこやのせ座で行った、今回初めての企画、アマチュアバンドによる演奏などで、これまで以上に多くの人出で賑わいました。

「宿場まつり」が地域に定着した祭りになったと今更ながら感じました。

まつりの運営において各団体、町内会より100名を超す方々にスタッフとしてお世話していただきました、多くのボランティアの皆さま有難うございました。

このお祭りの運営に関わる全般において、地域の皆さまの協力と参加で成り立っています。今回も「地域の文化と伝統の継承」をコンセプトに子どもも参加できる楽しい企画で、多くの人が参加できる祭りになるよう全力で取り組みました。今後とも皆様のご協力とご参加をよろしくお願い致します。

「宿場まつり」に対するご意見、ご要望がございましたら遠慮なくお申しつけ下さい。今後の参考にさせていただきます。

平成29年度「筑前木屋瀬宿場まつり」実行委員会
企画部会長　八尋　弘文

金剛中央公園が開園

中学校区念願の多目的公園が完成

木屋瀬中学校区には、イベントやスポーツ大会を催すための会場がないため、先年、木屋瀬自治区会を始めとする五つの自治区会長連名で市長宛に多機能グラウンドの設置にむけて要望書を提出しました。

その結果、土地買収や測量、議会承認など経て、金剛中央公園を整備拡張して総合的なグラウンドにする工事が進められました。この程工事が完了し、地元への引渡しが行われました。この完成を記念して好天に恵まれた一月二十一日《日》「金剛中央公園開園式」が執り行われました。

行政、議員団、施工及び設計業者そして地元の名士やスポーツ団体を始めとする各団体や一般の方々など200余名の参加者全員が収納できる大型テントが設営され木屋瀬中学校の吹奏楽部によるファンファーレを合図に開式となりました。主催者を代表として挨拶された高宮歳継自治区会長は「我々の要望に沿った立派な公園グラウンドが完成し無上の喜びである。地域で大切かつ有効に使用していきたい」とお礼と抱負が述べられました。

北橋市長の祝辞

その後、北橋健治市長より祝辞を頂戴し、福原自治区会長より経過と管理運営についての説明がなされ開式セレモニーは終了しました。

引き続きアトラクションとして木屋瀬中学校の吹奏楽部の演奏に移り、土屋眞史先生の指揮の下、すばらしい演奏の数々が披露され、アンコール曲までいただきました。こうして金剛中央公園の開園式は成功裡のうちに終了し、今後、盆野球を初めスポーツ大会やイベントなどで幅広く使用されることになります。

木屋瀬中学校吹奏楽部の演奏で祝福

長崎街道ひなまつり
木屋瀬宿～立場茶屋銀杏屋
今年も好評開催中

現在みちの郷土史料館企画展示室では、**「長崎街道ひなまつり　木屋瀬宿～立場茶屋銀杏屋」**（２月17日㈯～３月18日㈰）を開催しております。昨年に引き続き、石坂の立場茶屋銀杏屋（３月18日㈰まで）と木屋瀬のもやいの家（３月31日㈯まで）、旧高崎家住宅【伊馬春部生家】（３月31日㈯まで）、木屋瀬宿記念館（３月18日㈰まで）の４館に江戸あかりの民藝館（３月18日㈰まで）を加えた５施設連携のイベントとなります。

それぞれの施設で趣を変えて、古式の雛飾りやさげもん等の展示を行っております。

もやいの家では、３月１日㈭～３月３日㈯、立場茶屋銀杏屋では、３月２日㈮～３月４日㈰で、甘酒などの振る舞いも行っております。この機会にぜひお越しください。

総合問合わせ先：長崎街道木屋瀬宿記念館　TEL：093-619-1149

シリーズ 筑前木屋瀬宿 神仏めぐり

第42回 大儀山 永源寺 木造聖観音菩薩立像

禅宗の初祖と言われる、達磨大師尊像
（永源寺　新谷鐵僊作）

最近各地のお寺や美術館、博物館等で仏像の展示会が行われています。いずれも大盛況で、仏像鑑賞がブームのようです。現代人は毎日の機械文明の生活に追われ、心が傷ついているのかもしれません。

そのような時、仏像を見ることで心が癒され和んでくるようです。来館される人は、特別仏教に信心のある人だけではなさそうです。

あの端正な姿と穏やかなお顔に、救いを得たいという願望が無意識のうちにはたらいているのかもしれません。

仏教というのは、釈迦の教えであり、仏に成る教えです。釈迦の本名はゴータマ・シッタルターと言って、インドの北にあった、釈迦国の王子として、紀元前六世紀頃生まれた実在の人物です。

二十九歳の時、妻子供を残し、「出家」し、その後修行をして、菩提樹の下で、瞑想して悟りをひらきます。そこで、人々は釈迦族の尊者、「釈尊」とも。又「仏陀（目覚めた人）」、略して「仏」とも呼びます。では、どのような事を悟ったのか、「この世は無常である」事を悟ったのです。無情とは違います。

この無常の原理が分かれば、人間は、あらゆる苦しみから解放されると説きました。

釈迦の没後、釈迦の姿に接することが出来ない後世の弟子や信者が追慕の念やみがたく、ギリシャ文化の影響もあって釈迦像を作るようになりました。その後、紀元前後頃から、大乗仏教の時代になり、経典の中から、多種多様な「仏」や「菩薩」が出現しました。

仏像は大きく分けると、「如来」「菩薩」「明王」「天部」というグループになります。このような目に見えない仏の姿、心を形にするのが仏師です。「心は形をすすめる」「形は心に従う」と、仏師たちは、精魂込めて仏像を作りました。その心が現代人に感動を与えるのでしょう。

さて、永源寺の御本尊、聖観音菩薩は、顔が一つで、手が二本の普通の人間の姿です。頭上には、小さな仏を戴き、手に蓮の花の蕾を持ち、きれいな衣を纏った装飾がなされ、体には、金糸が張り付けてあります。樟の一木造りで、九十六センチの立ち姿で、鎌倉時代の製作と推定されています。胎内に収められた木札の墨書から、江戸時代に二度修復されていることも判明し、市指定の有形文化財に指定されています。

遠い昔から現代まで、多くの木屋瀬の人がこの仏像に額ずき、癒されたことでしょう。観音菩薩は、人々のどのような苦悩にも応じ、慈悲の心で衆生を救うとされています。

お経には『水難、火難、はじめの七難、そして欲、怒り、愚かさの三難から救う』と書かれています。人々の今生の願いを叶えてくれるありがたい仏様です。

永源寺本尊
聖観音菩薩立像

雛祭り観音菩薩八頭身
戌の年達磨大師の一睨み　靖彦

宿場木屋瀬街づくりの会
会長　野口靖彦

多数のご参加・ご来場ありがとうございました

「木屋瀬　時代（とき）の散歩道」

今年で15回目となる講座「木屋瀬　時代の散歩道」を平成29年9月22日から10月20日まで全5回で開催し、受講生は41名で木屋瀬に関係する歴史上の事件や故事を学んでいただきました。また、案内ボランティアの方に木屋瀬の町並みを案内していただきました。この案内は、希望により2回続けて実施したので充実したものとなりました。ボランティアの皆さん誠にありがとうございました。また、受講生の皆さんお疲れ様でした。

さて、この講座は、平成30年も同じ時季に実施する予定です。お誘い合わせの上ご参加をお待ちいたしております。

こやのせ New Year コンサート

木屋瀬宿記念館では平成30年1月21日(日)、響ホール室内合奏団の方をお迎えしてコンサートを行いました。わかりやすく、楽しい説明と共に美女と野獣やライオンキング、キャッツやレ・ミゼラブルなど、多くのミュージカル楽曲の演奏、体を楽器として使ったボディパーカッションを披露してくださいました。チェロ、ピアノ、パーカッションに、元劇団四季の俳優さんの力強い歌声で会場内は盛り上がりました。

来場者は約200名と例年より多くの方にお越しいただき、ほぼ満席となりました。ご来場誠にありがとうございました。

新任職員紹介
学芸員　岩崎　秋沙

昨年の11月より、前任の石田さんに代わり木屋瀬宿記念館の学芸員に着任しました。木屋瀬の町を、記念館を、より盛り上げられるように努力していきたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

名前は「秋沙」と書いて「アイサ」と読みます。秋になるとシベリアから日本に飛来するカモ亜科の水鳥、ミコアイサ、カワアイサの「アイサ」が由来です。九州以南ではなかなか見つけることが難しい鳥ですが、遠賀川周辺でアイサを見かけた方は、ぜひご一報ください。また、記念館のアイサには季節問わず会えますので、ぜひ遊びにいらしてください。

叙勲受賞おめでとうございます

寄せ太鼓の「長崎街道木屋瀬宿　口上之覚」を執筆戴いたみちの郷土史料保存会顧問の松尾良美さんが、昨年瑞宝双光章を受賞されました。心から受賞をお慶び申し上げます。

筑前木屋瀬 今昔歳時記 第2回

紅屋泰助氏（故　柴田泰助氏）の「筑前木屋瀬今昔歳時記」の第2回目です。

第1回では、木屋瀬の歴史の歩みを簡単にご説明させて戴きました。今回は、一月から五月までの主だった行事をご紹介させて戴きます。

先ず、一月は氏神様・須賀神社の〔歳旦祭〕に〔どんど焼〕。二月・三月は無くて、四月に入りますと初老賀（四十四賀）行事に、春季大祭（春祭り）。続いて五月には飯尾宗祇の来訪故事を名称由来とする〔扇天満宮学神祭〕。此の行事は古くより旧本町三町（現在は六町）の輪番制にて行われて来たもので、学齢に達した子供たちの男子は「うし」女子は「うめ」の習字を奉納し、進学を祈願する習いが何時の頃からかございます。

又、五月には町内単位の伝統行事として、明治四十年の大火に被災した本町住民が伝承する〔火事籠り〕が須賀神社にて、又明治四年の大火災を起こりとする感田町の〔火事籠り〕が興玉神社にて、執り行われます。中町では農事関係の〔お籠り〕（通称・豆籠り）もございます。次に、二〇〇二年から始まり、今では五月連休恒例の地域イベントとして定着した〔木屋瀬芸術祭〕を紹介させて戴きます。

此の行事は「まちづくり」の拠点施設である北九州市立長崎街道木屋瀬宿記念館の地元運営協議会（こやのせ座運営部会）が「自主企画・自主運営」の信条と「熱き思い」で取り組んでおり、今年で17回目（註：記念館）を迎えます。基幹は次の四行事です。

① 基調講演〔筑前木屋瀬八幡伝説・伊藤小左衛門〕（現在は、落語会や中学校の演奏会等に替る　註　記念館）伊藤小左衛門は木屋瀬を出自とする黒田藩の御用商人。鎖国時代最大の密輸事件「寛文の抜け荷事件」の首謀者として一族郎党とも磔刑（たくけい）の運命を辿（たど）りました。その研究は木屋瀬の住民の課題との思いから、毎回小左衛門研究の第一人者である武野要子女史を招いて開催しています。小説化、さらに大河ドラマ化の夢まで密に目論んでいます。

② 〔長崎街道筑前六宿フォーラム・オンリーワンをめざす町づくり〕

筑前六宿で夫々の歴史的文化財産を活かした活動を呼び掛けて始めたフォーラムで、今年で九回目（筑前六宿歴史談義と名を変えて継続中　註　記念館）。今では、六宿住民による地域交流が実を結び、二〇一二年に迎える「冷水峠開削・筑前六宿開通四百周年」に向けて準備委員会も設立。一昨年より、筑前六宿住民が連携・協力する活動を六宿全域に展開する迄に発展しています。今年は、更にこの間の実績をもとに、活動の輪を佐賀・長崎へと広げて、長崎街道二十五次の沿道住民の連携協力する活動に発展する事をテーマに行う考えで居ります。（準備委員会は実行委員会となり、記念事業を3年間実施、現在は筑前六宿連携事業実行委員会に改組　註　記念館）

つづく（記念館）

▼いろはかるたのご紹介

い　飯塚（いづか）・木屋瀬（こやんせ）　碁盤（ごばん）の表（おもて）

〈原田・山家に冷水峠　エッホ山駕籠（かご）内野宿　飯塚・木屋瀬碁盤の表　駒を早めて黒崎へ〉

街道を往来する人々が筑前六宿を唄った街道唄と伝えられる中の一節でございます。険しい冷水峠を隔てる原田・山家宿や内野宿とは異なり、遠賀川の沖積平野部に位置する飯塚宿と木屋瀬宿との間は、その平坦さから碁盤の表と唄われたものでございましょう。

木屋瀬冬の風物詩 第17回 木屋瀬いろはかるた 歌留多大会

正月恒例の「木屋瀬いろは歌留多大会」も回を重ね、今年は17回目となり総勢90名の方に参加していただきました。子どもの部と一般の部（中学生以上）に分かれ、トーナメント方式で行いました。

会場は熱中する子どもたちの熱気に溢れ、こやのせ座運営部会ボランティアの方々の用意したぜんざいにも皆さん喜んでいただけたようです。

木屋瀬ならではの文化や歴史が織り込まれた【岩井屋不彫さんの木屋瀬いろは歌留多】今回紹介するのは【ぬ】。

ぬ　塗り盆に　柿の葉すし

木屋瀬の郷土料理の柿の葉すしは、五目寿しを熱いうちに色づきかけた柿渋の葉で包み、一晩重石をかけて作り、漆塗りの盆に体裁よく段重ねにして出します。

食べるときは一枚一枚異なる柿の葉の色文様を楽しむのが良いとされます。

お宮日（おくんち）にはかかせないお御馳走の一つで、現在でも宿場まつりの日に須賀神社で柿の葉すしが参詣者に振舞われています。

【入賞者】

子どもの部（参加者49名）
※うち幼稚園生3名含む

・優　勝　藤田　美羽（木屋瀬小4年）
・準優勝　清水　陽成（木屋瀬小6年）
・第3位　藤田　美朔（木屋瀬小1年）
・第3位　永末　翔（木屋瀬小6年）

一般の部（参加者41名）

・優　勝　江藤　彩華（木屋瀬中1年）
・準優勝　森　優花（木屋瀬中2年）
・第3位　森中裕太郎（木屋瀬中2年）
・第3位　丸山　穂夏（木屋瀬中1年）

わたしの昔話

【柴田豊廣遺稿集】より

■史址　笹田のお薬師さま

金剛山からおひさまが昇る。このおひさまの恵みを受けて新しい気力と希望にはずみ人々の営みがはじまる。金剛山を取りまく集落や森や渓は、常に山の霊気に抱かれ育まれ静かな幸にある。こんな中の笹田に、千五百年の歴史をもつといわれる御薬師さまがある。見るからに歳古びたたたずまいではある。境内には何本かの古樹が尚強く立ち、大空を閉じ歴史をも閉じて、お薬師さまの聖地を守っている。

本堂の中には国宝に値する御仏像だと惜しまれている数多くの仏さまが安置されていて、正にありがたき薬師浄土である。薬師浄土は、内陣四方を守る四天王を配置し、内陣正面の高台に御本尊を安置し、その御威光の中に日光月光の二菩薩を配祀し最前列に十二神将が配列されている。十二神将は、お薬師さまを信仰する人々をお守りする武将神であり、中国のそれぞれの時代の代表武将で各々その時代の服装をつけていて非常に珍しく貴重である。

どんな宗教にも、大衆に受け入れられるための信仰の形が現わされている。仏教にも、人々がさとりの境地に到達する事を理想とする信仰の形がある。こうしたいろいろの信仰の形がある中にお薬師さまは、「私の教えは人々の願いに答えて、さまざまな現世利益を授けます」と信仰の形を示されて大衆の中に出現された。

この時代の人々の最大の危難は死であった。この死に対して安心感をあたえて下さる仏としてお阿弥陀さまが早くからおられるが、薬師さまは現世利益をあたえて下さる仏であり、人々を病から守り、死をはるかかなたに追いやる力をも、あたえて下さる仏さまであると大衆に受け止められて多くの信者が出来た。こうして現世利益を授かりたいと願う多くの信者たちがお詣りする薬師浄土は、笹田のお薬師さま以外には近傍にはなかったと思われるので、かなり遠くからのお詣りもあったと考えられる。笹田は遠近から現世利益を願って集まる多くの人々の心の触れ合いに賑わう、楽しさと嬉しさの聖地でもあった。

本町　柴田由美子

平成29年度 子供えびす頭（かしら）

子の成長を地域で見守る木屋瀬の伝統行事

12月9日、10日に須賀神社にて11名の児童によりまして平成29年度子供恵比須頭が行われました。

この祭りは、木屋瀬に江戸時代から伝わる由緒ある行事で、旧来、男の子が数え年11歳（現在の4年生）になりますと地域の若衆（大人）の仲間入りをする儀式として執り行われたものです。昔は男の子もこの年頃になりますと奉公に出たり家業の手伝いをしたりして、子供時代に別れを告げる習慣があり、この期を境に大人の仲間に入る事になります。武士社会では「元服（げんぷく）」として祝福したそうですが、これに相当する町民方の行事だと思われます。

現在では毎年12月の第一土曜日と日曜日の2日間に渡って行われ、笹山車（やま）を作りそれに紅白の幕を張り、頭になった子供の名前を書いて町内を練りまわります。

笹山車の巡行の他には、須賀神社に伝わる社宝（御幣、獅子頭など）を奉持した神幸の行列が「とまれ　とまれ　旅の客」と歌いながら町内を廻ります。

また、須賀神社でお払いを受ける御座と呼ばれる神事を受け、その後、鮒のにこごり、大根のにこごり等定められた品々が並べられ初めは、これで大丈夫なのかと心配しましたが、子供たちのやる気頑張りは親の想像以上で、祭り当日までの成長過程には感動させられました。

本年は、生憎の雨に見舞われた時間もありましたが、子供達は元気いっぱいに山笠を楽しんでいました。

この地に育った男の子達にとっては一生一度の祝事であり忘れられない故郷の思い出として残るものです。この経験を糧として今から先色々な事にチャレンジしていってほしいと思います。

最後になりましたが、この行事の準備から本番までご協力頂きました氏子総代会を始めとする町内の皆様方、またご芳志くださいました皆様方に、平成29年度子供恵比須頭の関係者を代表いたしまして、心より御礼を申し上げます。

世話人代表　上坂　正昭

ご祝儀の膳につきます。

11月下旬から柳勝二氏を始め青年会、地域の方々、頭を経験した子供達の熱心なご指導のもと太鼓・采振りの練習を行いました。